

1 研究主題

学ぶ楽しさ、分かる喜びが実感できる子どもの育成
— ICT の日常化・効果的活用の工夫 —

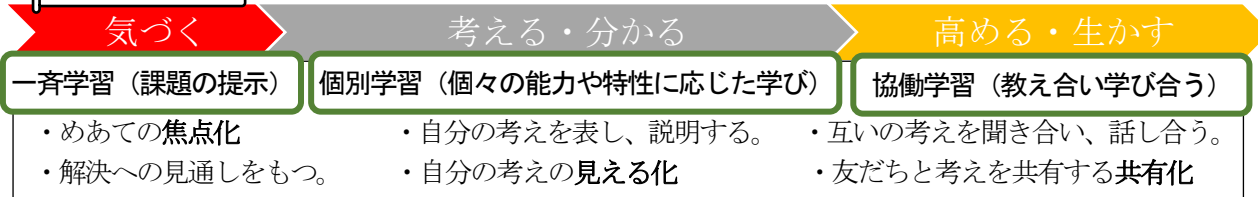
2 研究の具体

どの児童にとっても学ぶ楽しさや分かる喜びを実感させるために、「焦点化」「見える化」「共有化」の3つの視点からの授業のユニバーサルデザイン化に努め、問題解決的な学習過程を基盤として基礎学力の定着、思考力の育成を図ってきた。これまでの研究に加え、ICT を効果的に活用した学習指導及び日常での活用に視点を当てて研究を推進し、情報活用能力の育成を図りながら、主体的・対話的に学びを追求し、互いの考えを深めようとする児童の育成を図る。

(1) 教科等の指導における ICT の効果的活用

① 学習場面に応じた ICT 活用の工夫

問題解決型学習



② 各教科の特性を生かした ICT の活用 (実践例)

【1年 国語「ちいさいやゆよ」】



小さく書く文字を探してタブレットに印をつけ、理解を深めた。

【3年 社会「観音寺市の農業」】



タブレット上の地図に野菜や果物のスタンプを貼ることで、自分の考えを表現した。

【4年 算数「面積」】



図形を分割・補完する複数の考え方を共有した。

③ その他、日常の活動での活用の工夫

- わくわくタイム (各学年週2日)
- オンラインでの児童朝礼
- 委員会等での活用
- 等

(2) 教員の ICT 活用指導力の向上

- ① 学習支援ソフトやドリル教材の基本的な操作についての研修
- ② 授業に ICT を効果的に活用するための研究授業
- ③ 情報活用能力系統表の見直し 等

(3) 情報モラルの育成

- ① 「谷っ子の約束～タブレットの使い方～」の作成、指導
- ② 全校朝会でモラル教材の視聴
- ③ 情報モラル指導計画に沿った学習指導
- ④ 家庭との連携 等

3 研究の検証及び改善の手立て

○ 児童・教職員共に ICT 活用の意欲の高まりと操作技能の向上が見られる。児童アンケートによると、ICT の活用によって学習を楽しんでいる児童が増え、当てはまらなと答えた児童が減少した。多くの学級で、机の上に教科書やノート、そしてタブレットが準備されるなど、授業風景も変わってきている。

● さらに多くの教科の特性に応じた活用の工夫、アナログとデジタルのバランスの考察、情報活用能力系統表の見直しや作成を行い、児童や教員に活用の差が生まれにくい工夫を考え、実践研究を進めていく。

学年	教員	児童
1年	75%	78%
2年	70%	75%
3年	65%	70%
4年	60%	65%
5年	55%	60%
6年	50%	55%

【情報活用能力系統表の見直し】

